

## サツマジミ・ヤクシマルリシジミ・ミカドアゲハ奮戦記 五十嵐喜昭

筆者は昨年から本年にかけ、和歌山県方面にサツマジミ・ヤクシマルリシジミ・ミカドアゲハを求め採集旅行を実施した。

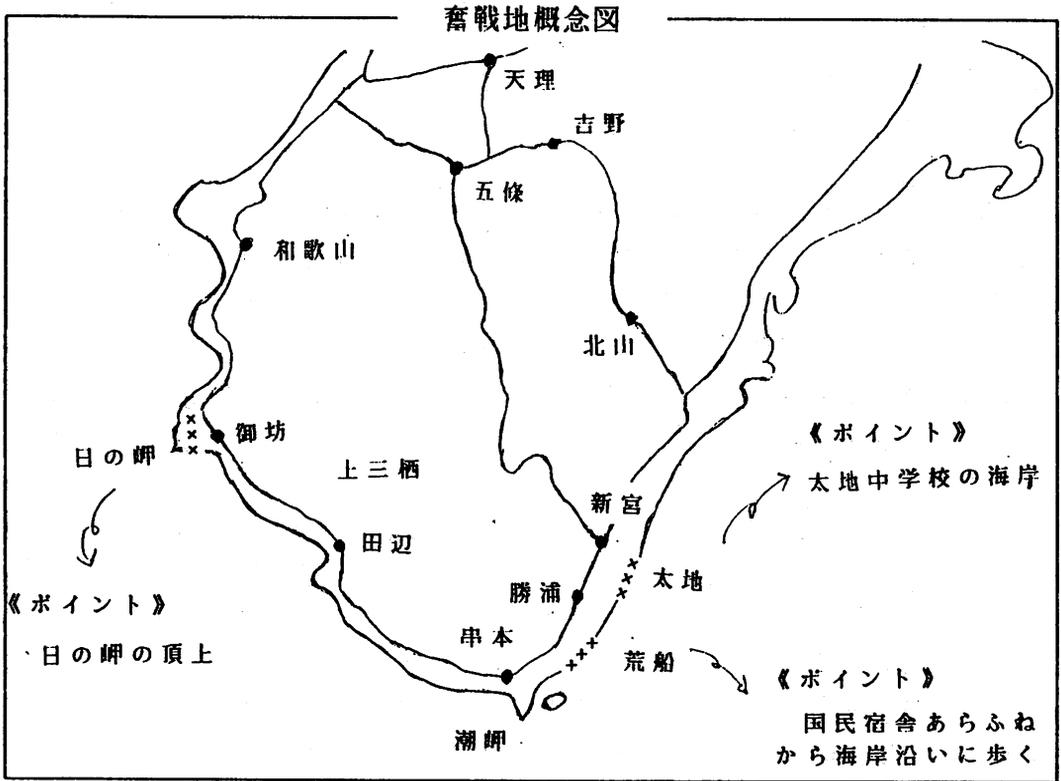
1992.X.25(日) 早朝4時に兵庫県神崎郡福崎町の自宅を出発した愛車が、和歌山県日の岬に到着したのは午前10時30分着であった。ポイントの日の岬の頂上は、おりしも海からの風が強く採集は容易ではない。僅かにサツマジミ1♀を得たのみで、この地を退散することにした。そして次の訪問地、田辺市上三栖へ着いたのは午後2時30分。主な目的種ではなかったが、クロコノマを3♂3♀採集することができた。満足な結果ではないが、まあこれでもよいだろう。

1992.XI.2(月) 前回と同じく和歌山県に向け出発し、この日は国道168号で山越え、南紀有数の観光ポイント那智滝巡りをし、目的地荒船に着いたのは午前10時頃であった。海岸はさわやかな小春日和であり、ポイントの国民宿舎「あらふね」から海岸沿いに歩く。目的のサツマジミとヤクシマルリシジミは乱舞とはいかないが、結構飛んでいた。もっぱらチョウを採るのは妻のほうで、筆者は、おお忙しの三角紙入れであった。奮戦した結果は次の通りである。ニコニコ・ニンマリ。

サツマジミ 15♂17♀ ヤクシマルリシジミ 5♂10♀

1993.V.4(火) 本年の和歌山県行きは鯨の町として有名な太地である。晴れていたのかかわらず、ポイントの太地中学校の海岸にはミカドアゲハの姿は見られなかった。到着時間が午後2時頃だったのと、海からの風が強かったのが原因か?。地元の蝶仲間と雑談したところ、今年は昨年よりミカドアゲハが少ないとか。この日は帰省と行楽で渋滞し、帰り国道169号にもかかわらず福崎に着いたのは翌日の午前3時となった。つまり24時間もかかったわけで、おもわぬ日帰りの訓練になってしまった。

以上で和歌山県での奮戦記を終えたいとおもう。最後になったが、この強行なスケジュールの採集に同行してくれた妻敬子に感謝する。



## 塩田跡人工林の謎

大貝秀雄

赤穂市城南緑地（通称グリーンベルト）は、塩田跡埋立地の臨海工業地域と住居地域を区分する目的で設けられた、幅50～100m全長4Kmの種々の常緑樹から成る人工林である。このように純粋な人工林における昆虫相の変遷は興味ある研究課題であるが、1976年11月の事業完成の後17年を経過した現在では、この地方の普通の二次林と差程違いのない多種の昆虫が既に定着しているようである。ところが驚くべきことには、赤穂市内では他の産地を全く知らないホシミスジとネアカヤンマが、少なくとも1991年以前からここに生息していたのである。特にネアカヨシヤンマは、毎年少なからぬ未熟成熟個体が確認されているにもかかわらず、幼虫の発生地となり得る池や湿地が緑地内には存在しない。赤穂城跡の堀で発生している可能性もあると見て調べているものの、未だ証拠はつかめず謎に つつまれている。